

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 田戸 朝美

〔題名〕

看護師による気管挿管患者の口腔ケアの探求と標準化

〔要旨〕

看護師による気管挿管患者の口腔ケアの実態を明らかにし、ケアの標準化を提言することを目指し、以下の3つの研究を実施した。

【研究1】

目的は、気管挿管患者の口腔ケアに関する看護師の認識と実際を明らかにすることである。方法は、集中治療に携わる看護師689名を対象に調査をした。その結果、口腔ケアの実施頻度、実施者数、アセスメント、汚染物の除去、汚染物の回収、保湿の一連の技術において、各施設・部署で多種多様な実践が行われていた。その中でも汚染物の回収は、洗浄法と清拭法の両方が取り入れられていた。

【研究2】

目的は、口腔ケアによる汚染物の回収の効果と口腔衛生状態及び流れ込みの程度を明らかにすることである。方法は、集中治療室で気管挿管を受けた患者75名を対象に、洗浄法・清拭法・吸引ブラッシング清拭法の3つで、手技の違いによる効果と影響を検証した。その結果、汚染物の回収では、洗浄法が効果的であった。しかし、洗浄法は流れ込みと乾燥を引き起こす可能性があった。口腔衛生状態及び口腔内水分量では、清拭法・吸引ブラッシング清拭法が良好であった。また病原菌の増殖抑制効果では、抗菌剤が含まれる吸引ブラッシング清拭法の効果が高かった。

【研究3】

目的は、ブラッシング技術に影響する要因を検証することである。方法は、健常人21名を対象に自身と他人へのブラッシング技術とブラッシングに関する認識との関連を検討した。その結果、時間をかけることと実施者のブラッシング技術が高いことが、プラーク除去率を高めていた。このことから、気管挿管患者のブラッシングでは、視野を確保し、気管チューブの固定を確実にした安全な環境で、時間を十分確保した丁寧で適切なブラッシングが必要である。

【結論】これらの研究を踏まえ、気管挿管患者の標準的口腔ケアを考案した。標準的口腔ケアは、準備、実施頻度と実施者数、方法の3つの要素より構成した。ケアは、2種類の「ブラッシングケア」と「保湿ケア」とした。ブラッシングケアでは、十分なブラッシングと洗浄による汚染物の除去・回収を行い、保湿ケアでは、抗菌剤を含んだ保湿剤によって、病原菌の増殖抑制と水分量維持を行う。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第1543号	氏名	田戸 朝美		
	主査教授	堤 雅恵			
論文審査担当者	副査教授	野垣 宏			
	副査教授	山勢 博彰			
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)					
看護師による気管挿管患者の口腔ケアの探求と標準化					
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)					
気管挿管患者の口腔ケアにおける汚染物の回収の効果と口腔衛生状態及び流れ込みの程度					
掲載雑誌名 日本クリティカルケア看護学会誌 第15巻 (2019年掲載・掲載予定)					
(論文審査の要旨)					
申請された学位論文は、人工呼吸器関連肺炎の予防に焦点を当て、看護師による気管挿管患者の口腔ケアの標準化を目指した3つの研究で構成されていた。					
【研究1】 気管挿管患者の口腔ケアに関する看護師の認識と実態を明らかにすることを目的に、集中治療に携わる看護師689名を対象とした調査を実施した。					
【研究2】 口腔ケアによる汚染物の回収の効果と口腔衛生状態および流れ込みの程度を明らかにすることを目的に、集中治療室で気管挿管を受けた患者75名を対象に、手技の違いによる効果を検証した。					
【研究3】 ブラッシング技術に影響する要因を明らかにすることを目的に、健常人21名を対象に、対象者自身および他者へのブラッシング技術とブラッシングに対する認識との関連を検討した。					
これらの研究を踏まえ、結論として、準備、実施頻度および実施者数、方法の3つの要素で構成された気管挿管患者の標準的口腔ケアが提案された。					
本研究は、国内外の広範囲かつ詳細な文献検討を踏まえた上で、綿密に計画された3つの研究で構成され、学位論文は、科学的に論述され完成度の高い内容となっていた。最終的に提案された口腔ケアは、肺炎予防の効果が期待できるだけでなく、臨床現場に勤務する看護師にとって実施しやすい形で示されていたことから、標準化された手法としての普及が期待でき、今後の急性期看護学分野に大きく貢献するものと思われる。以上から、審査委員会は、申請された学位論文が博士(保健学)にふさわしい価値あるものと認める。					
以上					
備考 審査の要旨は800字以内とすること。					